

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	15-027	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Light to Moderate Alcohol Consumption Is Associated With Lower Risk of Aortic Valve Sclerosis: The Study of Health in Pomerania (SHIP).</p> <p>少量から中等量の飲酒は大動脈弁硬化のリスクを下げる : SHIP 研究</p>		
<b>執筆者</b>		
Markus MR, Lieb W, Stritzke J, Siewert U, Troitzsch P, Koch M, Dörr M, Felix SB, Völzke H, Schunkert H, Baumeister SE.		
<b>掲載誌</b>		
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2015 May;35(5):1265-70. doi: 10.1161/ATVBAHA.114.304831.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒 冠動脈弁硬化症 大動脈弁硬化 疫学		25767276
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的 :</b> 一般住民の横断研究において、飲酒量と大動脈弁硬化との関連を検討した。</p> <p><b>方法 :</b> ポメラニア在住の 45~81 歳の一般住民 2,022 名を対象とした横断研究を実施した。コンピューターを使用したインタビューにより過去 30 日間の飲酒頻度および量を調査し、1 日あたりの平均アルコール摂取量を算出した。また、心エコー検査で大動脈弁硬化を診断した。</p> <p><b>結果 :</b> 大動脈弁硬化の有病率は 32.3%であった。飲酒量と大動脈弁硬化有病率との間には J カーブ現象がみられた。1 日あたりの平均アルコール摂取量が 10 g の少量飲酒者に比べ、禁酒者における大動脈弁硬化の多変量調整オッズ比は 1.60 (95%信頼区間 1.01-2.41)、1 日あたりの平均アルコール摂取量 60 g の多量飲酒者におけるオッズ比は 1.56 (95%信頼区間 1.19-2.14) であった。</p> <p><b>結論 :</b> 少量から中等量の飲酒は、大動脈弁硬化のリスクが低かった。</p>		